

2024

第1回進路説明会資料

目次

1	進路選択・決定に向けて	・・・	1
2	進路に関する今後の流れ	・・・	2
3	中学校卒業後の進路	・・・	3
4	上級学校の種類	・・・	4
5	進学・入試のしくみ	・・・	6
6	学習の進め方と保護者の役割	・・・	10
7	その他	・・・	11

第3学年

北区立明桜中学校

2024/07

1 進路選択、決定に向けた流れ

1 自分を知ろう

まずは、誰のための進路なのかを自覚しましょう。人任せにせず、自分自身について「自分で」考えることが大切です。自分について聞かれたら、答えられますか。

- (例)
- 性格（長所、短所）
 - 学力（得意教科、苦手教科）
 - 適性（どんなことに向いているか）
 - 興味、関心（趣味や特技、好きな分野など）

これらのことがいつでも答えられるように、自分自身を見つめ直してみましょう。



2 将来を考えよう

将来の目標をできるだけ、具体的にもちましょう。

「少しでも早く職業に就き、自立したい」

「興味のある専門の勉強をして、学んだ技能を活かす仕事に就きたい」

「高校から大学の〇〇系の学部へ進学し、学んだことを活かせる仕事に就きたい」

「高校では、△△の部活動で大会で成果を挙げ、大学もその道へ進みたい」

「高校、大学、大学院と自分の興味ある分野の研究をとことんやりたい」

今決めるのは難しいですが、考えてみるのが大切です。



3 進学や就職の目的や理由をはっきりさせよう

「進学したい」、「就職したい」等の目的や理由が明確になれば、それに合った学校や事業所を選択することができます。目的を果たすために必要な内容は何か、いくつか項目を挙げ、優先順位をつけて学校や事業所の情報を検討してください。



4 進路先の内容を調べよう

- 資料で調べる（書籍、パンフレット、ホームページなど）
- 直接調べる（説明会や体験に参加する、在學生や卒業生に話を聞く）

など、学校の特色、教育目標、教育内容、卒業生の進路、入学の難易度、交通経路、所要時間、学費など、様々な視点から具体的に調べていきましょう。ある程度、希望が固まってきたら、入試の形態や日程も見て、受け方を決めていきます。高校によっては学校説明会への参加が必須の場合もあります。



5

相談しよう

一番の相談相手は、みなさんを小さい頃からずっと身近で支えてきた「家族」です。早い段階から何度も話し合いを重ね、意見を一致させていくことが重要です。先生にも積極的に相談するようにしてください。

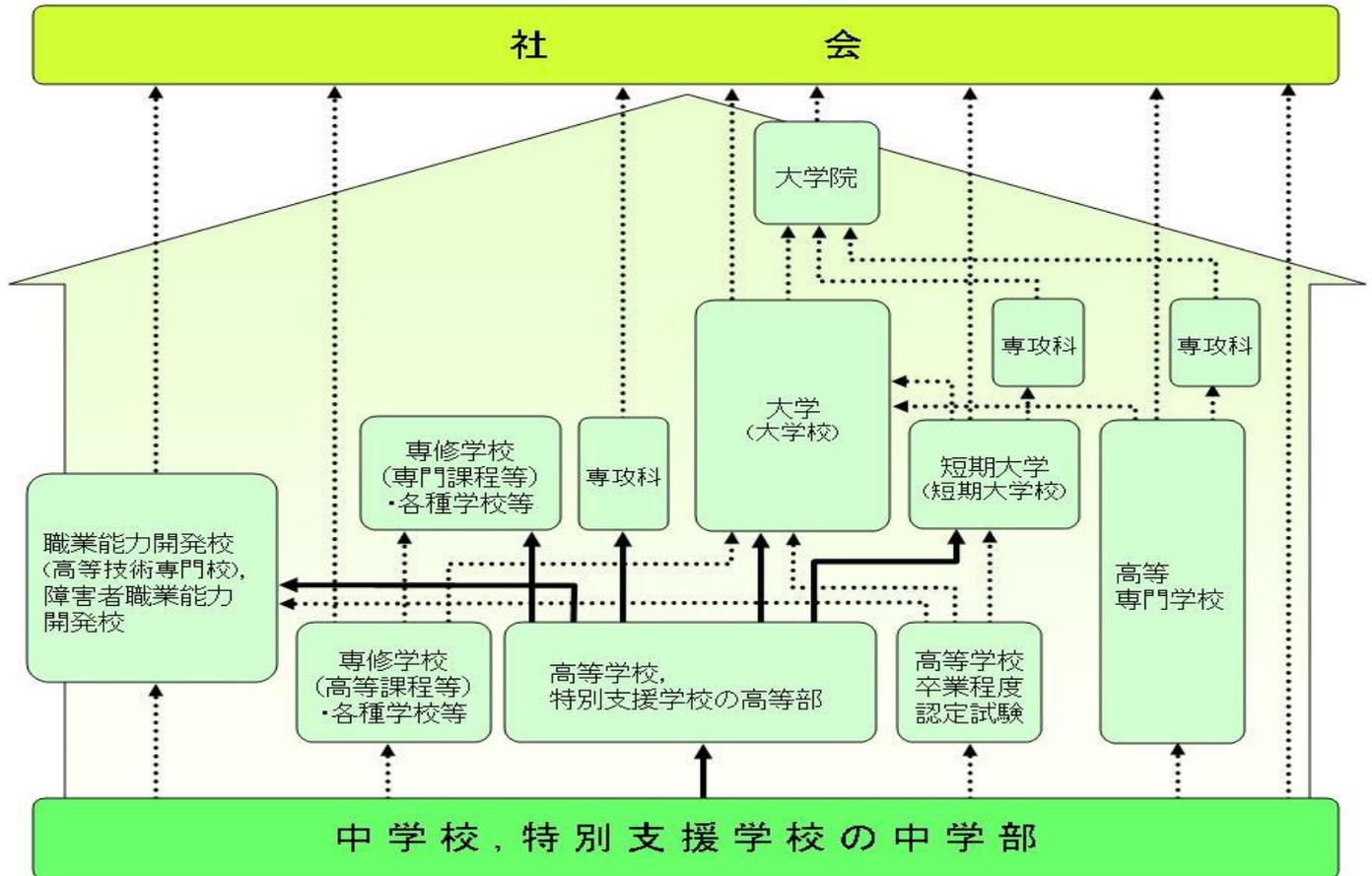
6 候補を絞り、実現に向けた努力を積み、決定へ

最初から一つに決める必要はありません。候補をいくつかに絞り、その進路実現のために必要な努力を重ねながら、希望順を決めていきましょう。

2 今後の流れ（日程は変更になる場合があります）

月日	学校行事等	進路希望調査	生徒の活動内容や取り組み
6月19、20、21日 (水、木、金)	1学期中間考査	第1回 (5月配布)	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深める 高校訪問などを通して進路についての情報収集 入試制度などの理解
6月24日(月)	到達度テスト①	第2回 (7月配布)	
7月6日(土)	第一回進路説明会	第3回 (10月配布)	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年の復習、総まとめの学習 <u>高校(公立・私立)訪問</u>
7月19日(金)	前期通知表配付		
7月22(月)～29日(月) 7月20～8月31日	三者面談 夏季休業日		
9月17、18日(火、水)	1学期期末考査		
9月26日(木)	到達度テスト②		
11月14～15日 (木、金)	2学期中間考査	<p>※積極的に各高校が主催する、学校見学会・学校説明会、入試説明会、文化祭、体育祭、体験入学・体験授業などに参加しよう。なぜなら・・・</p> <p>①私立高校の中には、推薦希望者は必ず見学会等に出席し、面接を受けなければならない学校もあるからです。</p> <p>②いろいろな学校に実際に行ってみることで、自分に合っている高校はどのような学校かわかってくるからです。</p>	
11月18日(月)	到達度テスト③		
11月24日(日)	英語(ESAT-J) スピーキングテスト 予備日12/15(日)		
12月2(月)～6日(金)	三者面談		
12月15日(日)～	私立高校入試相談		
12月25日(水)	中期通知表		
12月26日～1月8日	冬季休業日		
1月20日(月)ごろ	都内私立高校推薦入試		
1月26、27日(日、月)	都立高校推薦選抜		
1月31日(金)	都立高校推薦発表		
2月10日(月)～	都内私立高校一般入試		
2月21日(金)	都立高校一次/前期入選		
2月27、28日(木、金)	2学期期末考査		
3月3日(月)	都立高校一次/前期発表		
3月11日(火)	都立高校二次/後期入選		
3月14日(金)	都立高校二次/後期発表		
3月19日(水)	卒業式		<ul style="list-style-type: none"> 入試対策 進路先への手続き 卒業準備

3 中学校卒業後の進路



(1) 就職

- ① 職業安定所（ハローワーク）の斡旋（あっせん）で就職する。
- ② 職業安定所を経て、縁故先（えんこさき）へ就職する。
- ③ 家事を手伝う。
- ④ 都立職業能力開発センターで学んだ後に就職する。

(2) 進学

- ① 高等学校（公立高校、私立高校〔全日制・定時制・単位制・通信制等〕）
- ② 高等専門学校（修業年限5年間・・・現在、東京には3校）
 - ・都立産業技術高等専門学校（品川区、荒川区）
 - ・国立東京工業高等専門学校（八王子市）
 - ・私立サレジオ工業高等専門学校（町田市）
- ③ 専修学校・・・許可基準が各種学校より厳しい（1年以上）
 - * 高等学校卒業資格取得を併設する専修学校もある。
- ④ 各種学校（自動車、料理、被服、簿記、理容・美容など）
- ⑤ 都立職業能力開発センター
- ⑥ 企業内学校 日野工業高等学園（日野自動車企業内訓練校）など



4 上級学校の種類

(1) 高等学校

① 学校の設置者によってわかれる学校の種類

国立高校・・・国が設置した高校。ほとんどが国立大学の教育学部の附属となっている。施設など充実していることも多いが、募集人数は少ない。

都立高校・・・東京都が設置した高校。近年「個性のある高校づくり」が進行中。

私立高校・・・創立者が理想とする教育理念の実現を目的に設置した高校。学校独自のカラーを持ち、希望者は、東京に限らず他県の高校へも出願できる。

② 3つの課程によってわかれる学校の種類

全日制高校・・・昼間（朝～夕方）登校して授業を受ける高校。設置者によって、国立・都立・私立に分類される。一般的に、3年で卒業である。

定時制高校・・・夜間（例：夕方5時頃から9時頃まで）に授業を受ける高校や3部制（都立桐ヶ丘、世田谷泉、大江戸、六本木など）、単位制（都立新宿山吹）の高校もある。また、昼間に授業を受ける定時制高校もある。学校の教育課程により3、4年で卒業する。

通信制高校・・・通信による教育を行う高校。基本的には自宅での自習により、課題の添削、面接指導（スクーリング：月数回程度）、テストなどを通じて単位を取得する。

③ 主に学習する内容によってわかれる学校の種類

普通科・・・幅広い一般的な教養を身につけることを目標とし、大学・短大・専門学校への進学や就職などに対応。普通科の一部にコース制普通科があり、好きな授業を多く受けられるシステムになっている。

専門学科・・・工業や商業などに関する専門的な知識や技術を身につけることを目標とする。

工業科だけでも、機械科・自動車科・電気科・電子科・建築科・工業化学科・金属工芸科・デザイン科など、さらに細かな専攻に分かれている。大学受験にも力を入れているが、就職や専門学校への進路を選ぶ者も多い。

他に農業科、科学技術科、家庭科、福祉科、芸術科、国際科、産業科等がある。

総合学科・・・幅広い選択科目の中から自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、将来の職業選択を視野に入れた学習、個性を生かした主体的な学習ができる。

④ 2つの区分によってわかれる学校の種類

学年制・・・学年ごとに学習内容が決まっており、修得できないと進級できず留年となる。

単位制・・・卒業に必要な単位（授業）数があらかじめ決められて、ある一定の枠内で自由に授業を選択し、必要な単位を取得すれば卒業できる。

⑤ 多様な都立高校のタイプ

昼夜間定時制高校（一橋高校、新宿山吹高校、浅草高校など）

昼夜間定時制高校は、自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校。

チャレンジスクール（桐ヶ丘高校、世田谷泉高校、大江戸高校、六本木高校、小台橋高校、稔ヶ丘高校）

チャレンジスクールは、主に小・中学校で不登校の経験があったり、高校で中途退学を経験したりする生徒が、もう一度自分の目標を見つけ「チャレンジ」するための高校である。午前・午後・夜間の三部制をとる定時制・単位制の総合学科高校。調査書は提出せず、学力試験もなく、作文・面接・志願申告書で合否を決める。

エンカレッジスクール

エンカレッジとは「励ます」「勇気づける」の意味。可能性がありながら力を発揮しきれずにいた生徒を「勇気づける」ため、基礎・基本に重点を置く。入試は学力試験が無く、調査書・面接・小論文・実技などで合否を決める。一部が30分授業、習熟度別授業、二人担任制、体験学習の重視など、特色ある教育課程を持つ。

（足立東高校、蒲田高校、練馬工科高校など）

⑥ 特色ある教育活動を行う都立高校

進学指導重点校（日比谷、西、青山、戸山など）

進学指導特別推進校（小山台、新宿、駒場、国際、小松川など）

進学指導推進校（三田、竹早、北園、墨田川、城東、江戸川、江北など）

進学指導の充実を図り、進学実績の向上を目指す。都教育委員会から指定を受け、指導力のある教員を配置したり、習熟度別授業や土曜の補習・補講等で必要な支援を受けたりできる。

（2） 高等専門学校

卒業年数は5年間で、一貫した教育課程に基づく専門教育をうけることができる。卒業後は短期大学卒業と同等の資格が認められる。大学進学をする生徒も多く、大学3年への編入の道も開けている。3年生修了時に、他の高校生同様に大学を受験することもできる。

（3） 専修学校・各種学校

比較的短期間（学校・学科によって異なる）の間に、すぐ職業に役立つ技能や教養を身に付けることを目的に設置されている。ほとんどが私立である。学習する内容は理容・美容・調理・看護・被服・絵画・デザイン・英会話などがある。費用・規模などは、学校によって様々である。

サポート校は通信制高校と連携し、高等学校の卒業資格をとることができる。

（4） 職業能力開発センター

旧都立職業技術専門校、旧職業訓練校。近くでは、中央・城北職業能力開発センター赤羽校がある。

5 進学・入試のしくみ

(1) 都立高等学校の選抜方法

(詳細は9月に決定し、東京都教育委員会のホームページに掲載されます。)

各校とも学校独自の特色を打ち出しています。自分の目で確かめ、自分に適した学校なのかをよく考えて選択することが大切です。また、各高校が出している「本校の期待する生徒の姿」を確認することも重要です。

1 推薦入試<昨年度・全日制の例>

- ① 第一志望の学校を中学校長の推薦をもとに受検し、合格したら必ず入学しなければなりません。
- ② 都立高校の推薦入試は合格者が定員の10～40%なので、一般的に倍率が高く、一般入試よりも合格するのが難しい状況です。
- ③ 学力検査はありません。
- ④ 一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦の2種類の選考方法があります。両方を受けることも可能です。
- ⑤ 一般入試で、再度同じ都立高校を受検しても、有利・不利になることはありません。
- ⑥ 検査は、個人面接を原則、全ての学校で実施します。
- ⑦ 小論文又は作文、実技検査、その他学校が設定する検査の中からいずれか1つ以上を全ての学校で実施します。
- ⑧ 選考は調査書と検査の結果を点数化した総合成績で行います。

2 一般入試<第一次・分割前期募集の例>

調査書と学力検査、スピーキングテストの合計、1020点満点で行われます。調査書は、中学3年の12月31日現在の評定が使われます。4月からの学習の総合結果です。

- ① 調査書 中学3年の12月31日現在の成績を使用し、下記のように調査書点を算出します。

換算点を算出 入試科目である5教科はそのまま積算し、入試にない4教科は2倍します。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{国社数理英の} \\ \hline \text{5教科評定合計} \\ \hline \end{array} \times 1 + \begin{array}{|c|} \hline \text{音美保体技・家の} \\ \hline \text{4教科評定合計} \\ \hline \end{array} \times 2 = \begin{array}{|c|} \hline \text{換算点} \\ \hline \text{65点満点} \\ \hline \end{array}$$

換算点を300点満点に変換する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{換算点} \\ \hline \text{65} \\ \hline \end{array} \times 300 = \begin{array}{|c|} \hline \text{調査書点 (300点満点)} \\ \hline \end{array}$$

- ② 学力検査 学力検査は5教科(国語・社会・数学・理科・英語)で、各教科100点満点です。5教科合計の得点を700点満点に換算した数値が学力検査点となります。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{入試得点} \\ \hline \text{500} \\ \hline \end{array} \times 700 = \begin{array}{|c|} \hline \text{学力検査点 (700点満点)} \\ \hline \end{array}$$

- ③ 英語スピーキングテスト 20点満点

(2) 私立高等学校の選抜方法

私立高校には、それぞれ独自の教育方針と校風があり、入試方法も様々です。自分の目で確かめ、自分に適した学校を選択することが大切です。ここに書かれているのは、大まかな選抜方法です。各校、都道府県、また年度により、多少異なります。

1 推薦入試

- ① 「第一志望であり、合格したら必ず入学する」ことを条件に一般入試より有利な条件で受験できる制度です。
- ② 推薦受験は、高等学校が示す推薦基準を満たし、中学校長の推薦を得ることができる生徒となります。
- ③ 選考方法（学校によって異なります）
各高校の推薦基準に照らし、調査書、推薦書、面接、作文、実技などにより選考します。原則として学力試験は課されません。しかし、適性検査（国・数・英の基礎学力テスト）を実施する高校もあります。
- ④ 推薦の基準は、人物が第一ですが、各高校の定める推薦条件（学習意欲・成績・特別活動の実績・欠席日数、遅刻回数など）を満たしている必要があります。また、学校説明会・体験授業などに参加していることが条件の一つになっている高校もあります。
- ⑤ 1・2年生学年末の成績の提出を求められる場合もあります。
- ⑥ 各種検定（英検、漢検、数検等）、ボランティア活動や生徒会活動の実績、欠席・遅刻の日数なども重視する学校が近年増加しています。
- ⑧ 推薦入試は、受験者全員が合格するわけではありません。
（例）受験する私立高校が、出願者の成績上位者から合格を認める場合など。

2 一般入試

- ① ほとんどの高校が国語・数学・英語の3教科の学力試験と面接・調査書で合否を決定します。
- ② 高校によっては、試験の得点と同様に調査書も重く見ます。
- ③ 面接も合否判定の上で、重要な資料となります。生活指導上問題があると面接で判定された場合は、学力試験の得点が高くても不合格になることがあります。
- ④ 併願優遇制度
「もし第一志望の〇〇高校が不合格になった場合、貴校に入学する」という条件で受験できる制度です。一般入試より学力試験の結果を優遇するなど有利な条件で受験できます。
 - ・すべての私立高校に併願優遇制度があるというわけではありません。
 - ・多くの私立高校では第1志望高校を都立高校に限定していますが、一部の高校で、私立高校との併願ができる場合があります。
 - ・都立高校の（一次試験の）合格発表まで入学金などの延納を認める学校、入学金などの一部を納入する学校など、各学校で条件が設定されています。都立推薦入試で合格しても、出願だけ求められることもあります。

※出題範囲について、東京都の私立高校は各学校の判断で対応することになっています。

高等学校等への推薦を希望する場合の留意事項

下記の①～⑤の条件を全て満たした生徒を教職員が推薦し、学校長が認めた生徒に対して、本人・保護者が制度の利用に合意した場合に受けることができます。なお、生徒・保護者連名で「推薦願」を提出します。

〈明桜中の推薦基準〉

(1) 目的意識

志望校の教育理念や求められている生徒像を理解して、強い進学意志をもっていること。

(2) 学習

意欲をもって授業に参加し、学力の向上、心身の健康の向上に積極的に取り組んでいること。

(3) 生活

中学生としての基本的な生活習慣やマナーを身に付け、「きまり」、「約束」を守って身だしなみを整え、他の生徒の模範となる行動ができていること。

(4) 特別活動

学級活動、生徒会活動、部活動、ボランティア活動など諸活動に、熱心に、かつ継続的に取り組んでいること。

(5) その他

進路先においても上記(1)～(4)に当てはまる行動をとり、努力を続けられる者。

- ① 推薦入学は、本校と当該高等学校等との信頼関係で成り立っています。そのため、推薦生徒の決定にあたっては、生徒の中学校生活全般を全教員で総合的に見て、本校の推薦者として高校入学後も十分に活躍してくれると推薦委員会等で判断した上で、校長が推薦を決定します。
- ② 推薦の場合、都立・私立とも合格したら原則、辞退することはできません。
- ③ 推薦は、ほとんどの場合学科試験を免除されるため、当日の学科による試験の得点に左右されることがない分、有利な受験方法といえるかもしれませんが、しかし、早い時期に志望校を決定することになるため、十分に考える必要があります。
- ④ 当該高等学校等の学校説明会等には、ホームページ上での案内も含め、積極的に参加してください。
- ⑤ 都立高校の「**推薦に基づく選抜**」(推薦入試)は、合格者数が定員の10～40%と学校によって違いがあり、「**学力検査に基づく選抜**」(一般入試)に比べて倍率が高く、合格することが難しい学校もあります。不合格でも再度同じ都立高校を受検でき、有利・不利になることはありません。しかし、安易に推薦に臨み、不合格となって動揺し、一般で実力が発揮できなかったという事例も見られます。十分に考えた上で希望してください。
- ⑥ 推薦の場合、一般入試の受験者より早く合否が出ます。早く合格が決定した場合は、目標に向かって努力を続けている他の受験生への十分な配慮が必要です。また、推薦合格者の中には、一般入試の受験者に比べ勉強不足になる生徒も見られます。高校入学後の授業に備えて、合格後も真剣に学習に臨みましょう。

6 学習の進め方と保護者の役割

(1) 生徒が意識すべきこと

- ① 授業やテスト学習のような日常の学習（内申点）に加えて、学力検査（入試得点）に向けて、3年間の復習や苦手教科の対策を進めて行かなくてはなりません。
- ② 3年間の復習や苦手教科対策を学校の授業で扱うことは少ないので、原則として家庭学習の時間を使って進めましょう。
- ③ 1年間という長い期間努力を続けるためには、学習計画等の工夫や精神的な強さが必要です。

目 標	対 策	基礎となる力
内申点の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にして、学ぶべきことは授業の中でしっかり学ぶ ・提出物をしっかり出す。 ・テスト学習に真剣に取り組む。 ・苦手教科を克服する。 	しっかりとした生活習慣 家庭学習の習慣
入試得点の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の復習や苦手教科を勉強する。 ・できるだけ多くの問題練習に取り組む。 ・過去問題を研究する。 	長期や短期の学習計画
自己表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学等に参加して、学校が期待しているものを知る ・進路の情報を自分のものとして活用する。 ・自己表現の技術として、集団討論、面接、作文の訓練をする とともに、日常生活を改善する。	目標を決める力 継続する力

(2) 保護者の役割

ほとんどの生徒にとって生まれて初めての経験であり挑戦になります。中学生での進路決定は、本人任せでも保護者が独走してもうまくいかないものです。人生の経験者であり子どもの最大の理解者である保護者が、大人として、進路決定や成長に良い形で関わっていきけるよう役割を確認しておいてください。

保護者の役割	
保護	身体的、精神的健康に気を配り、落ち着いた家庭環境、学習環境をつくる。
指導	社会を背負っている大人として、社会の仕組みやルールを教え、時には過ちを正す。
応援	考えをしっかり受け止め、先を見通すことのできる大人の視点で相談に乗る。 将来について家庭で話し合い、本人に希望や目標を見つけさせる。 努力を支援し、本人の意志と責任で目標を達成させる。

7 その他

(1) 都外に転居をお考えの方

都外へ転居することが決まっています、公立高校の受検を希望する場合は、転居先の道府県の公立高校に出願することになります。都立高校への出願はできません。東京都以外の他道府県の公立高校を受検する可能性がある場合は、入試のシステムなどが東京都と異なりますので、可能性がある場合には、速やかに担任までお申し出ください。

(2) 奨学金の利用をお考えの方

学校にとどいた奨学生募集についての情報は、進路だよりなどでお伝えします。また、それぞれの奨学金で条件が異なることもありますので、詳細は学校にお問い合わせください。

(3) スポーツ等による推薦をお考えの方

保護者の方や生徒から、私立高校とのやりとりをし、「スポーツなどの特技をいかした推薦をもらいました。」という話を聞くことがあります。自己推薦でない場合は中学校長の推薦が必要ですので、手続き上問題が発生することもあります。そのような話がある場合には、早めに担任にお伝えください。

(4) 出願・発表・手続き等について

近年、私立高校でのインターネットでの出願や発表が増えています。このような場合は、受験番号や結果がわかり次第、ご家庭から学校へ連絡をお願いいたします。また、入学手続きや延納手続きにつきましても、完了次第、学校へ連絡をお願いいたします。

(5) 進路に関してのご不明な点は、ささいなことでも学校にお問い合わせください。

奨学金・貸付金について

貸し付け型（将来、返済の義務あり）

- ・「東京都育英資金」の予約募集案内
- ・あしなが奨学金
- ・「北区の奨学資金貸付制度」

給付型（返済の義務なし）

- ・公立学校進学者に向けた「就学支援金」、「奨学給付金」
 - ・私立学校進学者に向けた「就学支援金」、「授業料軽減助成金」、「奨学給付金」
- こちらの方は、いずれも、高校進学後の申し込みとなります。

また、各区市町村（もちろん北区にもあります）では、受験生がいるご家庭向けに、「受験生チャレンジ支援貸付金」があります。

奨学金・貸付金・助成金を申請するには、世帯収入など様々な条件が付いています。申請の際には、いくつかの提出書類なども必要となります。お早目に、担任までご相談ください。

<令和6年度 中学校英語スピーキングテスト>

1 事業の概要

対象	都内公立中学校第3学年全生徒
実施日	令和6年11月24日(日) 予備日 令和6年12月15日(日)
会場	都立学校、民間施設等

2 申込について

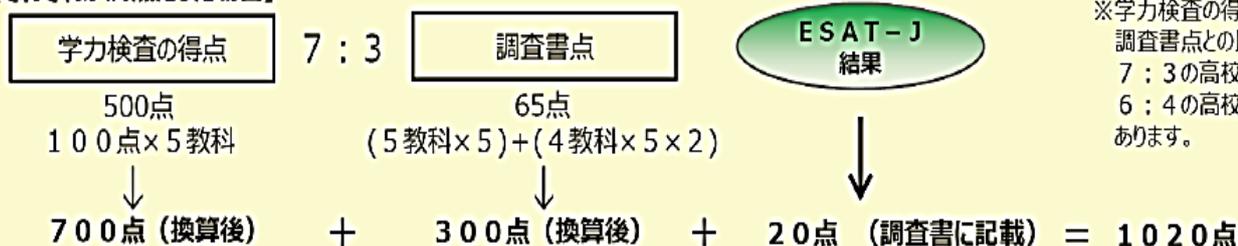
申し込み準備	<ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続可能なスマホ、タブレットパソコン ⇒ きたコン(クロームブック)を使用します。 顔写真のデータ ⇒ きたコン及び他デジタル機器で対応 生徒個人ID ⇒ 学校で保管し、申し込み時に使用します。 【必要な生徒のみ】(学校確認済みの)措置申請書
申し込み方法	<ul style="list-style-type: none"> 各ご家庭でのWEB申請となります。【全員対象 7/11-9/20】 ※特別措置申請は9/6までですので、期日にご注意ください。

3 スピーキングテスト 入試活用

中学校第3学年
都立高等学校入学者選抜への活用

学力検査の得点と調査書点の合計にESAT-J結果の点数を加え、総合得点を算出します。

【それぞれが満点だった場合】



※学力検査の得点と調査書点との比は、7 : 3の高校と6 : 4の高校とがあります。

4 受験上の配慮申請について

受験上の配慮が必要な方を対象に、「受験上の配慮」申請が可能です。
区分に関しましては以下の通りです。

【受験上の配慮申請に関する書類】

- 「令和6年度 中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）生徒用申し込みマニュアル参照
- 「令和6年度 受験上の配慮に関する案内書」※これはダウンロードする形式です。

【受験上の配慮申請の流れ】

- 1 「配慮内容1～14」を確認する。※保護者、教員とも相談可
- 2 「受験上の配慮に関する案内書」をダウンロードするか、閲覧できる状態にする。
- 3 「受験上の配慮申請書」を印刷し、必要事項を記入する。
- 4 記入済みの「受験上の配慮請書」を学校へ提出する。
- 5 学校長の公印のある「受験上の配慮申請書」を画像データにします。
- 6 「受験上の配慮申請」を行う。

※受験上の配慮申請は9/6までですので、期日に間に合うように事前の準備をお願いします。

配慮の内容

1	視覚関係 (点字・拡大文字)	点字問題による受験（試験時間の延長あり）
2		拡大問題冊子による受験（試験時間の延長あり）
3		拡大問題冊子による受験（試験時間の延長なし）
4	視覚関係（色覚特性）	白黒印刷問題冊子による受験
5	聴覚関係	音（音声）を文字化した問題での受験（音声の聞き取りなし）
6		音（音声）を文字化した問題での受験（音声の聞き取りあり）
7		音（音声）の聞き取りありでの受験（音声を文字化した問題なし）
8	きつ音・発話障害関係	解答時間の延長
9	上肢不自由	受験会場等に関する措置
10	発達障害	受験会場等に関する措置（試験時間の延長あり）
11		受験会場等に関する措置（試験時間の延長なし）
12	下肢不自由	受験会場等に関する措置
13	その他（持病・心理面で の配慮が必要な場合 等）	受験会場等に関する措置
14	日本語の補助 (日本語指導が必要な 場合・読み書き障害)	日本語に対する補助 【日本語指導が必要な場合の本措置の申請条件】国籍を問わず、 入国後の在日期间が本テストを受験した日の翌年4月1日現在、 原則とし6年以内の者で、日本語指導を必要とする者

※①配慮区分1～4は、重複して申請することができません。

※②配慮区分1を選択した場合は、配慮区分5、6、14を重複して申請することができません。

※③配慮区分5～7は重複して申請することができません。

※④配慮区分10・11は、重複して申請することができません。